(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3102000号
(U3102000)
(45)発行日　平成16年6月24日(2004.6.24)　(24)登録日　平成16年3月17日(2004.3.17)

(51)Int.Cl.[7]　F I
E05B 19/24　E05B 19/24

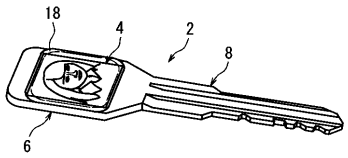
評価書の請求 未請求　請求項の数 4　OL　（全 4 頁）

(21)出願番号　実願2003-272801(U2003-272801)
(22)出願日　平成15年12月1日(2003.12.1)

(73)実用新案権者　503441218
株式会社プラスワン西日本
山口県周南市今宿町１－１０
(74)代理人　100075177
弁理士　小野　尚純
(74)代理人　100113217
弁理士　奥貫　佐知子
(72)考案者　坂井　哲也
山口県周南市桜木１丁目２番５－５０３

(54)【考案の名称】鍵

(57)【要約】
【課題】　鍵本体（２）の頭部（６）に施された写真が汚されてしまうことが充分に回避乃至抑制され、そしてまた被写体が必ずしも製作店まで来店する必要なくして製作することができる鍵を提供する。
【解決手段】　鍵本体（２）の頭部（６）に、表面に写真がプリントされたシート片（４）が貼着されていると共に、シート片（４）が透明乃至半透明樹脂被覆（１８）で覆われている。
【選択図】　図３



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
頭部と脚部とを有する鍵本体と、該鍵本体の該頭部に貼着され且つ表面には写真がプリントされているシート片と、該シート片の表面を覆う透明乃至半透明樹脂被覆とから構成されている。ことを特徴とする鍵。
【請求項２】
該樹脂被覆は光硬化性樹脂から成る請求項１記載の鍵。
【請求項３】
該シート片の少なくとも表面には透明乃至半透明樹脂フィルムがラミネートされている、請求項１又は２記載の鍵。
【請求項４】
該シート片は両面接着テープによって該鍵本体の該頭部に貼着されている、請求項１から３までのいずれかに記載の鍵。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、複製合鍵として特に好適である、鍵本体の頭部に写真が施されている鍵に関する。
【背景技術】
【０００２】
近時においては、複製合鍵として、所有者自身の写真或いは所有者のペットの写真の如き適宜の写真を施した鍵が提案され、実用に供されている。かかる鍵は、複製合鍵の製作店において所要被写体を撮像装置によって写真撮影し、鍵本体の頭部に直接焼き付けることによって製作されている。
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００３】
而して、鍵本体の頭部に写真が施された、上述したとおりの従来の鍵には、（１）鍵本体の頭部が指によって繰り返し把持されることによって比較的短期間のうちに写真が汚されてしまう、（２）鍵の製作のためには、鍵の所有者自身或いはそのペット等である所要被写体が製作店に来店することが必須である、という解決すべき問題がある。
【０００４】
本考案は上記事実に鑑みてなされたものであり、その主たる技術的課題は、鍵本体の頭部に施された写真が汚されてしまうことが充分に回避乃至抑制され、そしてまた被写体が必ずしも製作店まで来店する必要なくして製作することができる、新規且つ改良された鍵を提供することである。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
本考案によれば、表面に写真がプリントされたシート片を鍵本体の頭部に貼着すると共に、かかるシート片を透明乃至半透明樹脂被覆で覆うことによって、上記主たる技術的課題が達成される。
【０００６】
即ち、本考案によれば、上記主たる技術的課題を達成する鍵として、頭部と脚部とを有する鍵本体と、該鍵本体の該頭部に貼着され且つ表面には写真がプリントされているシート片と、該シート片の表面を覆う透明乃至半透明樹脂被覆とから構成されている、ことを特徴とする鍵が提供される。
【０００７】
該樹脂被覆は光硬化性樹脂から成るのが好適である。該シート片の少なくとも表面には透明乃至半透明樹脂フィルムがラミネートされているのが好ましい。該シート片は両面接着テープによって該鍵本体の該頭部に貼着されているのが好都合である。

【考案の効果】
【０００８】
本考案の鍵においては、表面に写真がプリントされたシート片が透明乃至半透明樹脂被覆によって覆われており、従って鍵本体の頭部が指によって繰り返し把持されてもシート片上の写真が汚されてしまうことが充分に回避乃至抑制される。そしてまた、本考案の鍵の製作に際しては、写真がプリントされているシート片を製作店に送付してもらう、或いは所謂デジタル写真のデジタル信号をインターネット等の通信手段を通して送信してもらって製作店で所要シートにプリントすることで、被写体が製作店まで来店する必要性が回避される。
【考案を実施するための最良の形態】
【０００９】
以下、添付図面を参照して、本考案に従って構成された鍵の好適実施形態について更に詳述する。
【００１０】
図１を参照して説明すると、本考案に従って構成された鍵は鍵本体２とシート片４とを含んでいる。ステンレス鋼の如き適宜の金属から形成することができる鍵本体２は頭部６とこの頭部６から細長く延出する脚部８とを有する。頭部６の少なくとも片面１０は実質上平面であるのが好適である。脚部８にはその長手方向及び幅方向に延びる鍵溝１２が刻設されている。シート片４は、例えば鍵の所有者自身或いは所有者のペットでよい被写体をデジタルカメラの如き撮像手段で撮像し、これによって得られたデジタル信号を普通紙或いは写真印刷に適した特定処理を施した紙でよいシート上にプリントし、かかるシートを適宜の寸法、即ち鍵本体２の頭部４の片面１０上に貼着するのに適した寸法に切断することによって好都合に作成することができる。複製合鍵の製作店にて複製合鍵として本考案に従って構成された鍵を製作する場合、製作依頼者即ち鍵所有者は所望の写真が表面にプリントされたシート片を作成して製作店に送付することができる。或いは、製作依頼者は撮像手段によって撮像した所望の写真のデジタル信号をインターネット等を通して製作店に送信し、かかるデジタル信号を使用して製作店がシート片４を作成することもできる。シート片４の、少なくとも写真がプリントされている表面、好ましくは表面と裏面の双方には、透明乃至半透明の合成樹脂フィルム１４(図４を参照されたい)がラミネートされているのが好都合である。
【００１１】
本考案に従って構成された鍵においては、図２に図示する如く、シート片４は裏面(即ち写真がプリントされている表面の反対側面)を鍵本体２の片面１０に対向せしめて、鍵本体２の片面１０上に貼着される。かかる貼着は両者間に両面接着テープ１６(図４を参照されたい)を介在せしめることによって好都合に遂行される。
【００１２】
図３及び図４に図示する如く、本考案に従って構成された鍵においては、更に、鍵本体２の頭部６の片面１０上に貼着されたシート片４を透明乃至半透明樹脂被覆１８で覆う。かかる樹脂被覆１８は、軟化状態の透明乃至半透明合成樹脂をシート片４上に塗布し、しかる後に係る合成樹脂を硬化せしめることによって好都合に形成することができる。透明乃至半透明樹脂被覆１８を形成する好適合成樹脂としては、紫外線硬化合成樹脂の如き光硬化合成樹脂を挙げることができる。
【００１３】
添付図面を参照して本考案に従って構成された鍵の好適実施形態について詳細に説明したが、本考案はかかる実施形態に限定されるものではなく、本考案の範囲を逸脱することなく種々の変形乃至修正が可能であることは多言を要しない。例えば、図示の実施形態においては、少なくとも片面１０が平面である鍵本体２を使用してかかる片面１０にシート片４を貼着しているが、所望ならば、頭部が円筒状或いはその他の適宜の形状の表面を有する鍵本体を使用して、円筒状或いはその他の適宜の形状の表面にシート片を貼着することもできる。

【図面の簡単な説明】

【００１４】

【図１】本考案に従って構成された鍵の好適実施形態を製作するための鍵本体とシート片とを示す分解斜面図。

【図２】図１の鍵本体の頭部の片面にシート片を貼着した状態を示す斜面図。

【図３】図２のシート片を透明乃至半透明樹脂被覆で覆って完成された、本考案に従って構成された鍵の好適実施形態の斜面図。

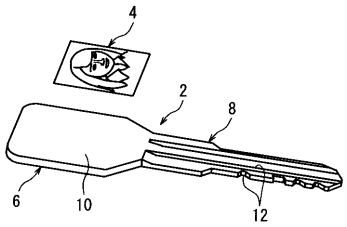
【図４】図３に示す鍵の部分拡大断面図。

【符号の説明】

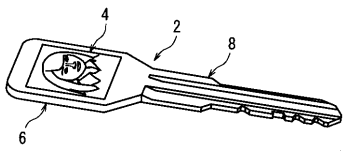
【００１５】

２：鍵本体
４：シート片
６：鍵本体の頭部
８：鍵本体の脚部
１４：樹脂フィルム
１６：両面接着テープ
１８：透明乃至半透明樹脂被覆

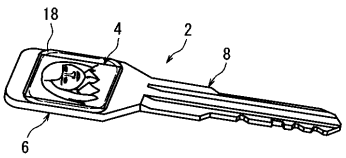
【図１】



【図２】



【図３】



【図４】

